

# 加茂市中小企業景況調査報告(平成25年4月～6月期)

全業種のDI平均値は、前期(1～3月期)の 46.2ポイントから31ポイント大幅に改善され、 15.2ポイントとなった。業種別では卸売業で103ポイントの大幅な回復がみられたが、建設業、製造業、小売業は若干の回復にとどまり依然厳しい状態が続いている。

| 業種<br>項目            |    | 建設業  |             | 製造業  |             | 卸売業  |             | 小売業   |             | サービス業   |             |
|---------------------|----|--|-------------|--|-------------|--|-------------|---|-------------|---|-------------|
|                     |    | 4～6月   | 7～9月        | 4～6月   | 7～9月        | 4～6月   | 7～9月        | 4～6月  | 7～9月        | 4～6月  | 7～9月        |
|                     |    | 今期状況   | 見通し         | 今期状況   | 見通し         | 今期状況   | 見通し         | 今期状況  | 見通し         | 今期状況  | 見通し         |
| 売上高                 |    | 34<br>( 69)  | 50<br>( 55) | 31<br>( 42)  | 23<br>( 26) | 14<br>( 40)  | 0<br>(10)   | 39<br>( 24)   | 21<br>( 24) | 5<br>( 13)  | 11<br>( 28) |
| 採算                  |    | 50<br>( 46)  | 58<br>( 67) | 29<br>( 49)  | 29<br>( 43) | 0<br>( 56)   | 13<br>( 50) | 44<br>( 53)   | 34<br>( 47) | 16<br>( 31)   | 23<br>( 28) |
| 資金繰り                |    | 25<br>( 38)  | 27<br>( 42) | 10<br>( 22)  | 20<br>( 27) | 0<br>( 10)   | 25<br>( 20) | 41<br>( 40)   | 39<br>( 42) | 28<br>( 15)   | 22<br>( 19) |
| 業況                  |    | 33<br>( 46)  | 42<br>( 54) | 33<br>( 44)  | 21<br>( 31) | 43<br>( 60)  | 0<br>( 20)  | 40<br>( 48)   | 40<br>( 35) | 13<br>( 33)   | 7<br>( 30)  |
| 経営上の<br>当面する<br>問題点 | 1位 | 民間需要の停滞  |             | 需要の停滞  |             | 需要の停滞  |             | 購買力の他地域への流出   |             | 利用者ニーズの変化への対応   |             |
|                     | 2位 | 官公需要の停滞  |             | 原材料価格の上昇   |             | 販売単価の低下  |             | 消費者ニーズの変化への対応   |             | 需要の停滞   |             |
|                     | 3位 | 材料価格の上昇  |             | 製品(加工)単価の低下  |             | 仕入単価の上昇  |             | 需要の停滞   |             | 人件費以外の経費の増加   |             |
| 業種別<br>コメント         |    | <p>今期は災害復旧関連工事等、公共工事が季節的に出始めている。</p> <p>また、住宅関係の消費税増税前の駆け込み需要もあり、業況DI値は若干ではあるが回復した。</p> <p>工事の発注数は多いが、依然として材料価格の上昇が続いており、採算面では4ポイント悪化した。</p> |             | <p>全項目とも若干ではあるが回復傾向にある。</p> <p>しかし、依然として原材料価格の高騰や海外との競争等による受注先からのコストダウン要求は止まらず、利益率の改善までには至っていない。</p> <p>今後も引き続き積極的な営業活動や技術革新、付加価値の高い受注獲得が望まれる。</p> |             | <p>他業種の全体的な回復に伴い関連企業のDI値が大幅に回復した。</p> <p>仕入価格の上昇が続く中、販売価格へ転嫁できない企業が多く、来期の見通しについては採算面や資金繰りで若干の不安が残る。</p> <p>厳しい競争を生き残るためには業界動向を分析するとともに情報力の強化を図り、提案型の営業で顧客へのアピールを続けることが必要である。</p> |             | <p>購買意欲を引き出すきっかけが見出せず全項目ともほぼ横ばい状態である。</p> <p>今後は価格競争ではなく各個店の特長を生かし、独自のサービスを提供することで他店との差別化を図り、集客力を上げることが必要である。</p> |             | <p>新年度を迎え歓迎会などの季節的要因もあり、業況DI値は若干の回復を見せているが、材料価格の上昇が続いており資金繰り面で13ポイントの悪化となった。</p> <p>材料価格の上昇等厳しい状況は続くが、個店独自の季節イベントや顧客リストを活用したDMなど既存顧客の来店回数増加、新規顧客の獲得等、顧客策への取り組みにより売上の確保が必要である。</p> |             |



とくに好調  
(50 DI)

好調  
(25 DI<50)

まあまあ  
(0 DI<25)

不振  
( 25 DI<0)

きわめて不振  
(DI< 25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

( )は前回調査時のD・I値